



# 平成 23年 3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成 23年 2月 2日

上場会社名 **小野薬品工業株式会社**

上場取引所 大阪・東京 各第一部

コード番号 4528

(URL: <http://www.ono.co.jp/>)

代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)相良 暁

問合せ先責任者 (役職名)常務取締役広報室長 (氏名)森本 公也

TEL (06)6263-5670

四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成 23年 3月期第3四半期の連結業績(平成 22年 4月 1日～平成 22年 12月 31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年 3月期第3四半期	101,609	△4.4	27,280	△21.0	29,920	△19.5	19,007	△22.7
22年 3月期第3四半期	106,325	2.0	34,541	△1.7	37,185	△2.0	24,592	17.9

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年 3月期第3四半期	174.98	—
22年 3月期第3四半期	226.17	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年 3月期第3四半期	426,090	398,387	92.6	3,653.08
22年 3月期	433,226	406,109	92.9	3,701.49

(参考) 自己資本 23年 3月期第3四半期 394,600百万円 22年 3月期 402,479百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1 四半期末	第2 四半期末	第3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年 3月期	—	90.00	—	90.00	180.00
23年 3月期	—	90.00	—	—	—
23年 3月期(予想)	—	—	—	90.00	180.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

## 3. 平成 23年 3月期の連結業績予想(平成 22年 4月 1日～平成 23年 3月 31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	131,000 △3.7	29,900 △24.9	31,900 △25.3	20,500 △26.5	188.97

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 : 有

4. その他(詳細は、5ページ「2.その他の情報」をご覧ください。)

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無

(注)当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

② ①以外の変更 : 無

(注)「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

23年 3月期3Q	120,847,500株	22年 3月期	120,847,500株
23年 3月期3Q	12,829,049株	22年 3月期	12,113,089株
23年 3月期3Q	108,623,952株	22年 3月期3Q	108,736,592株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※四半期レビュー手続の実施状況の表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な表示に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項は、4ページの「1.当四半期の連結業績等に関する定性的情報 (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	5
(1) 重要な子会社の異動の概要	5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
4. 決算補足説明資料	11
(1) 主な製品の売上高と予想	11
(2) 海外売上高	12
(3) 開発品の進捗状況	13

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間（平成22年4月～12月）における業績につきましては、以下の通りとなりました。

売上高	1,016億9百万円	前年同期比 4.4%減
営業利益	272億8千万円	前年同期比21.0%減
経常利益	299億2千万円	前年同期比19.5%減
四半期純利益	190億7百万円	前年同期比22.7%減

・売上高 前年同期比47億円（4.4%）減の1,016億円

主要製品の状況については、一昨年12月に新発売しました2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」は、積極的な情報提供活動により当初計画を上回るペースで新規処方拡大が進み、当第3四半期までの売上高は65億円となりました。また、同時期に新発売しました抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐治療剤「イメンドカプセル」も、本剤への評価の高まりとともに順調に売上が伸び35億円となりました。さらに、一昨年4月に新発売しました骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」も着実に市場育成が進み15億円となりました。

一方、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」や糖尿病性神経障害治療剤「キネダック錠」は適応領域において潜在市場の開拓活動を積極的に進めましたが、薬価の引き下げに加え想定を上回る後発品の影響もあり、「オパルモン錠」は前年同期比39億円（11.1%）減の314億円、「キネダック錠」は前年同期比25億円（19.2%）減の105億円となりました。

また、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「オノンカプセル」についても、薬価の引き下げに加え、競合品との競争激化や後発品の影響などにより、前年同期比42億円（22.4%）減の146億円となりました。

・営業利益 前年同期比72億円（21.0%）減の272億円

売上高が前年同期比47億円（4.4%）減少し、売上原価が前年同期比13億円（8.3%）増<sup>(※)</sup>の179億円、販売費及び一般管理費が前年同期比11億円（2.1%）増の563億円となりました結果、営業利益は前年同期比72億円（21.0%）減の272億円となりました。

なお、販売費及び一般管理費のうち研究開発費につきましては、ライセンス費用の増加を主因として、前年同期比32億円（11.5%）増の318億円となりました。また、研究開発費を除く販売費及び一般管理費は、退職給付費用の減少により、前年同期比21億円（7.9%）減の245億円となりました。

(※)原価率の高い新製品（導入品）の売上高が増加し、原価率の低い既存の自社主力品の売上高が減少傾向にあります。

・経常利益 前年同期比72億円（19.5%）減の299億円

営業利益は前年同期比72億円減少し272億円となりましたが、営業外収支が前年同期比でほぼ横ばいの26億円となったことにより、経常利益は72億円（19.5%）減の299億円となりました。

・四半期純利益 前年同期比55億円（22.7%）減の190億円

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

	当第3四半期連結会計期間末	前連結会計年度末	増減
総資産	4,260億9千万円	4,332億2千6百万円	△71億3千5百万円
純資産	3,983億8千7百万円	4,061億9百万円	△77億2千1百万円
自己資本比率	92.6%	92.9%	—
1株当たり純資産	3,653.08円	3,701.49円	△48.41円

総資産は、前連結会計年度末に比べ71億円減少して、4,260億円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ56億円増加して、1,874億円となりました。これは、たな卸資産が17億円減少した一方で、売上債権が93億円増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ127億円減少して、2,386億円となりました。これは、投資有価証券が162億円減少したことなどによります。

負債は、前連結会計年度末に比べ5億円増加して、277億円となりました。

また、純資産は、前連結会計年度末に比べ77億円減少して、3,983億円となりました。第3四半期純利益を190億円計上した一方で、剰余金の配当金の支払195億円、その他有価証券評価差額金の減少45億円、自己株式の取得26億円があったことなどによります。

(連結キャッシュ・フローの状況)

	当第3四半期連結累計期間	前第3四半期連結累計期間	増減
現金及び現金同等物 期首残高	720億9千7百万円	534億6千万円	—
営業活動による キャッシュ・フロー	172億9千9百万円	129億4千万円	43億5千8百万円
投資活動による キャッシュ・フロー	44億8千8百万円	240億2千3百万円	△195億3千4百万円
財務活動による キャッシュ・フロー	△216億9千万円	△190億5百万円	△26億8千5百万円
換算差額	△6千7百万円	1千6百万円	△8千4百万円
増減	2千9百万円	179億7千5百万円	—
現金及び現金同等物 四半期末残高	721億2千6百万円	714億3千6百万円	—

営業活動によるキャッシュ・フローは、172億円の収入（前年同期比43億円収入の増加）となりました。主な内訳としては、法人税等の支払136億円があった一方で、税金等調整前四半期純利益296億円などのキャッシュの増加要因がありました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、44億円の収入（前年同期比195億円収入の減少）となりました。主な内訳としては、有価証券及び投資有価証券の取得による支出があったものの、売却・償還等による収入があり、差し引き57億円の収入となったこと、有形固定資産の取得による支出9億円がありました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、216億円の支出（前年同期比26億円支出の増加）となりました。主な内訳としては、配当金の支払190億円、自己株式の取得26億円がありました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第3四半期末残高は、前連結会計年度末残高とほぼ同額の721億円となりました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期について下記のとおり修正いたします。

## (1) 平成23年3月期 業績予想の修正 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A) 平成22年9月8日発表 (前年同期比)	129,000 (△5.1%)	26,700 (△33.0%)	28,700 (△32.8%)	18,500 (△33.6%)	170.14
今回修正予想 (B) (前年同期比)	131,000 (△3.7%)	29,900 (△24.9%)	31,900 (△25.3%)	20,500 (△26.5%)	188.97
増減額 (B-A)	2,000	3,200	3,200	2,000	—
増減率	1.6%	12.0%	11.1%	10.8%	—
前年同期実績	135,986	39,840	42,711	27,878	256.38

## (2) 修正の理由

主要製品の当第3四半期までの売上状況及び研究開発費の進捗を踏まえ、前回発表の業績予想を修正しました。

具体的には、一昨年12月に新発売した2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」は、期初の計画以上に売上が伸びており、通期でも当初予想を上回る見込みです。

また、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「オノンカプセル」は、競合品との競争激化や後発品の普及・浸透の影響により売上が減少傾向にあります。積極的な情報提供活動により、想定以上に処方拡大が進んだことから、期初の計画ほど売上が減少しない見込みです。

以上のことから、「グラクティブ錠」と「オノンカプセル」の通期の売上予想を上方修正しました。

一方、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」、過活動膀胱治療剤「ステーブラ錠」、急性肺障害治療剤「注射用エラスポール」については、それぞれ期初の計画に対する当第3四半期までの進捗がやや悪かったため、通期の売上予想を下方修正しました。

なお、通期の研究開発費は、共同開発関連費用の当社負担分が予定より少なくなったことや、提携先への開発マイルストンの支払い時期が翌期にずれ込むことにより、計画(457億円)を15億円程度下回る見込みです。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

税金費用については、当第3四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益（累計期間）に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。なお、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

（資産除去債務に関する会計基準の適用）

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

なお、これによる営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に対する影響は軽微であります。

（四半期連結損益計算書関係）

第1四半期連結会計期間から「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づき、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成21年3月24日 内閣府令第5号）を適用し、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	33,004	15,387
受取手形及び売掛金	40,943	31,624
有価証券	84,324	97,830
商品及び製品	8,239	9,813
仕掛品	1,406	1,385
原材料及び貯蔵品	3,271	3,427
その他	16,294	22,385
貸倒引当金	△9	△12
流動資産合計	187,475	181,841
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	64,870	64,685
減価償却累計額	△42,259	△41,054
建物及び構築物(純額)	22,611	23,631
機械装置及び運搬具	15,549	15,292
減価償却累計額	△13,393	△13,152
機械装置及び運搬具(純額)	2,156	2,140
土地	22,553	22,539
建設仮勘定	742	637
その他	10,244	10,447
減価償却累計額	△9,365	△9,386
その他(純額)	879	1,061
有形固定資産合計	48,943	50,009
無形固定資産		
その他	997	866
無形固定資産合計	997	866
投資その他の資産		
投資有価証券	174,359	190,628
その他	14,316	9,889
貸倒引当金	△1	△8
投資その他の資産合計	188,674	200,508
固定資産合計	238,615	251,384
資産合計	426,090	433,226

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,190	2,344
短期借入金	1	1
未払法人税等	5,305	8,420
引当金	3,816	5,494
その他	10,738	7,181
流動負債合計	24,052	23,442
固定負債		
長期借入金	13	14
退職給付引当金	422	511
その他の引当金	122	87
資産除去債務	51	—
その他	3,039	3,061
固定負債合計	3,650	3,674
負債合計	27,702	27,117
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	17,358	17,358
資本剰余金	17,079	17,079
利益剰余金	430,320	430,870
自己株式	△66,104	△63,439
株主資本合計	398,654	401,868
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	5,126	9,706
土地再評価差額金	△8,937	△8,922
為替換算調整勘定	△242	△173
評価・換算差額等合計	△4,053	610
少数株主持分	3,787	3,629
純資産合計	398,387	406,109
負債純資産合計	426,090	433,226

## (2) 四半期連結損益計算書

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	106,325	101,609
売上原価	16,554	17,931
売上総利益	89,770	83,677
販売費及び一般管理費		
研究開発費	28,599	31,880
その他	26,629	24,516
販売費及び一般管理費合計	55,229	56,397
営業利益	34,541	27,280
営業外収益		
受取利息	1,116	1,018
受取配当金	1,464	1,582
その他	330	470
営業外収益合計	2,910	3,071
営業外費用		
支払利息	0	0
寄付金	222	210
その他	43	220
営業外費用合計	266	430
経常利益	37,185	29,920
特別利益		
過年度研究開発費戻入益	346	—
特別利益合計	346	—
特別損失		
投資有価証券評価損	51	210
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	28
特別損失合計	51	239
税金等調整前四半期純利益	37,480	29,681
法人税等	12,721	10,500
少数株主損益調整前四半期純利益	—	19,181
少数株主利益	165	174
四半期純利益	24,592	19,007

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	37,480	29,681
減価償却費	2,189	2,249
貸倒引当金の増減額(△は減少)	3	△3
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△2,042	△88
退職給付信託の設定額	5,000	—
受取利息及び受取配当金	△2,580	△2,600
支払利息	0	0
投資有価証券評価損益(△は益)	51	210
売上債権の増減額(△は増加)	△1,649	△9,319
たな卸資産の増減額(△は増加)	△3,926	1,708
仕入債務の増減額(△は減少)	1,356	1,834
その他	△2,660	4,466
小計	33,221	28,139
利息及び配当金の受取額	2,798	2,814
利息の支払額	△0	△0
退職給付信託の設定による支払額	△5,000	—
法人税等の支払額	△18,077	△13,653
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,940	17,299
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△29,030	△26,150
有価証券の売却及び償還による収入	73,970	46,749
有形固定資産の取得による支出	△1,969	△977
投資有価証券の取得による支出	△18,517	△14,820
投資有価証券の売却及び償還による収入	7	10
その他	△435	△323
投資活動によるキャッシュ・フロー	24,023	4,488
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の返済による支出	△0	△0
自己株式の取得による支出	△9	△2,664
配当金の支払額	△18,990	△19,021
少数株主への配当金の支払額	△4	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△19,005	△21,690
現金及び現金同等物に係る換算差額	16	△67
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	17,975	29
現金及び現金同等物の期首残高	53,460	72,097
現金及び現金同等物の四半期末残高	71,436	72,126

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

当社グループは、医薬品事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(追加情報)

第1 四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## 4. 決算補足説明資料

## (1) 主な製品の売上高と予想

(単位：億円)

製品名	23年3月期 第3四半期実績			23年3月期 通期予想		
	金額	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	金額	前期比 増減額	前期比 増減率
オパルモン錠	314	▲39	▲11.1%	395 (425)	▲51	▲11.4%
オノンカプセル	146	▲42	▲22.4%	195 (165)	▲56	▲22.4%
キネダック錠	105	▲25	▲19.2%	130	▲31	▲19.2%
フオイパン錠	87	▲16	▲15.4%	105	▲22	▲17.3%
オノンドライシロップ	65	▲5	▲7.4%	80	▲11	▲12.2%
ステーブラ錠	43	10	28.6%	60 (65)	14	31.5%
注射用エラスポール	39	▲3	▲8.0%	50 (55)	▲3	▲5.7%
注射用オノアクト	29	3	10.7%	35	4	11.4%

## 平成22年3月期に発売した新製品

(単位：億円)

製品名	23年3月期 第3四半期実績			23年3月期 通期予想		発売時期
	金額	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	金額	前期比 増減額	
グラクティブ錠	65	—	—	105 (75)	—	平成21年 12月
イメンドカプセル	35	—	—	45	—	平成21年 12月
リカルボン錠	15	8	114.8%	20	11	平成21年 4月

(注)1. 仕切価格（出荷価格）ベースでの売上高を開示しています。

2. 23年3月期通期予想の( )内の数値は、修正前の予想値です。

## (2) 海外売上高

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	欧州	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	352	2,032	92	2,477
II 連結売上高(百万円)				106,325
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	0.3	1.9	0.1	2.3

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) 欧州……イタリア、ドイツ、オランダ等

(2) アジア……韓国、台湾

(3) その他の地域……メキシコ等

3 海外売上高は、当社の輸出高(特許権等使用料収入を含む)であります。

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

	欧州	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	347	2,385	26	2,759
II 連結売上高(百万円)				101,609
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	0.3	2.4	0.0	2.7

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) 欧州……イタリア、ドイツ、オランダ等

(2) アジア……韓国、台湾

(3) その他の地域……メキシコ等

3 海外売上高は、当社の輸出高(特許権等使用料収入を含む)であります。

## (3) 開発品の進捗状況

平成23年2月2日現在

## 1. 国内開発品状況

## &lt;承認取得開発品&gt;

商品名/開発コード	区分	効能/薬理作用	剤型	
ステーブラOD錠 <sup>※1</sup> (ONO-80250D)/KRP-1970D	剤型追加	過活動膀胱/ムスカリン受容体拮抗作用	錠	共同 (杏林製薬)

※1：ステーブラOD錠は平成22年11月9日付で製造販売承認を取得しました。

## &lt;申請中開発品&gt;

製品名/製品名候補 /開発コード	区分	予定効能/薬理作用	剤型	
リバスタッチパッチ (ONO-2540)/ENA713D	新有効成分	アルツハイマー型認知症 /コリンエステラーゼ阻害作用	経皮 吸収剤	共同 (ノバルティス ファーマ)
注射用プロスタンディン	効能追加	勃起障害の診断/血管拡張作用	注射	自社
グラクティブ錠 (ONO-5435)/MK-0431	効能追加	2型糖尿病(α-グルコシダーゼ阻害剤との併用療法) /DPP-4阻害作用 2型糖尿病(インスリン製剤との併用療法) /DPP-4阻害作用	錠	共同 (MSD)
コアベータ注射用 (ONO-1101)	効能追加	コンピューター断層撮影による冠動脈造影における 冠動脈描出能の改善/β <sub>1</sub> 遮断作用(短時間作用型)	注射	自社
リカルボン錠 (ONO-5920)/YM529	用法・用量 変更 (月1回製剤)	骨粗鬆症 /骨吸収抑制作用(ビスホスフォネート系製剤)	錠	共同 (アステラス製薬)
プロイメンド注射用 (ONO-7847)/MK-0517	新有効成分	抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐 /ニューロキニン1受容体拮抗作用	注射	導入 (メルク社)

## &lt;臨床試験中開発品&gt;

製品名/製品名候補 /開発コード	区分	予定効能/薬理作用	フェーズ	剤型	
イメンドカプセル (ONO-7436)/MK-0869	小児での 効能追加	抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐 /ニューロキニン1受容体拮抗作用	Ⅲ	カプセル	導入 (メルク社)
ONO-4641	新有効成分	多発性硬化症/S1P受容体作動作用	Ⅱ	錠	自社
ONO-3849	新有効成分	オピオイド鎮痛薬の使用に伴う難治性便秘 /μオピオイド受容体拮抗作用	Ⅱ	注射	導入 (プロジェニックス社)
ONO-7643 <sup>※2</sup> /RC-1291	新有効成分	がん悪液質/グレリン様作用	Ⅱ	錠	導入 (ヘルシン社)
ONO-5334	新有効成分	骨粗鬆症/カテプシンK阻害作用	Ⅰ	錠	自社
ONO-4538 /BMS-936558(MDX-1106)	新有効成分	悪性腫瘍/完全ヒト型抗PD-1抗体	Ⅰ	注射	自社
ONO-2745 /CNS 7056	新有効成分	全身麻酔/GABA <sub>A</sub> 受容体作動作用 (短時間作用型)	Ⅰ	注射	導入 (パイオン社)
ONO-3951 /Asimadoline	新有効成分	過敏性腸症候群 /κオピオイド受容体作動作用	Ⅰ	錠	導入 (タイオガ社)
ONO-6950 <sup>※3</sup>	新有効成分	気管支喘息 /ロイコトリエン受容体拮抗作用	Ⅰ	錠	自社

※2：がん悪液質治療剤ONO-7643はフェーズⅡ試験を開始しました。

※3：気管支喘息治療剤ONO-6950はフェーズⅠ試験を開始しました。

## 2. 国外開発品状況

## ＜臨床試験中開発品＞

製品名／製品名候補 ／開発コード	区分	予定効能／薬理作用	フェーズ	剤型	
ONO-5334	新有効成分	骨粗鬆症／カテプシンK阻害作用	Ⅱ	錠	自社
ONO-4641	新有効成分	多発性硬化症／S1P受容体作動作用	Ⅱ	錠	自社
ONO-4538 /BMS-936558(MDX-1106)	新有効成分	悪性腫瘍／完全ヒト型抗PD-1抗体	Ⅰ	注射	共同 (プリストル・マイヤーズ スクイブ社)
ONO-4538 /BMS-936558(MDX-1106)	新有効成分	C型肝炎／完全ヒト型抗PD-1抗体	Ⅰ	注射	共同 (プリストル・マイヤーズ スクイブ社)
ONO-7746	新有効成分	血小板減少症 ／トロンボポエチン受容体作動作用	Ⅰ	カプセル	導入 (日産化学工業)
ONO-6950※4	新有効成分	気管支喘息 ／ロイコトリエン受容体拮抗作用	Ⅰ	錠	自社

※4：気管支喘息治療剤ONO-6950はフェーズⅠ試験を開始しました。